第3次有田市地域福祉活動計画
概要版

－　計画の基本理念　－

あがらが主役　あがらで創る　あがらのまち

地域の皆さんと一緒に今後４年間をかけて目指したいことをまとめています。
有田市をつくるのは、有田市で暮らす・働く　ひとり一人です。

表紙（両面）イラスト　宮本和明

社会福祉法人　有田市社会福祉協議会

第2次計画期間中、有田市の各地でいろんな世代の方が活動・交流してきました。（2017～2021年）

小学校を拠点とした福祉教育2013年度～
写真：2018年度　宮原小学校　畑作業

高校生の地域課題探求学習　2017年度～
写真：2020年度　箕島高校in箕島公民館

高齢者による見守り支援　2019年度～
写真：2019年度　港町老人クラブ

中学生とのふるさと学習　2020・2021年度
写真：2020年度
初島中学校フィールドワーク

大学生による魅力発信　2017年度～
写真：2018年度
和歌山大学観光学部箕島LIP

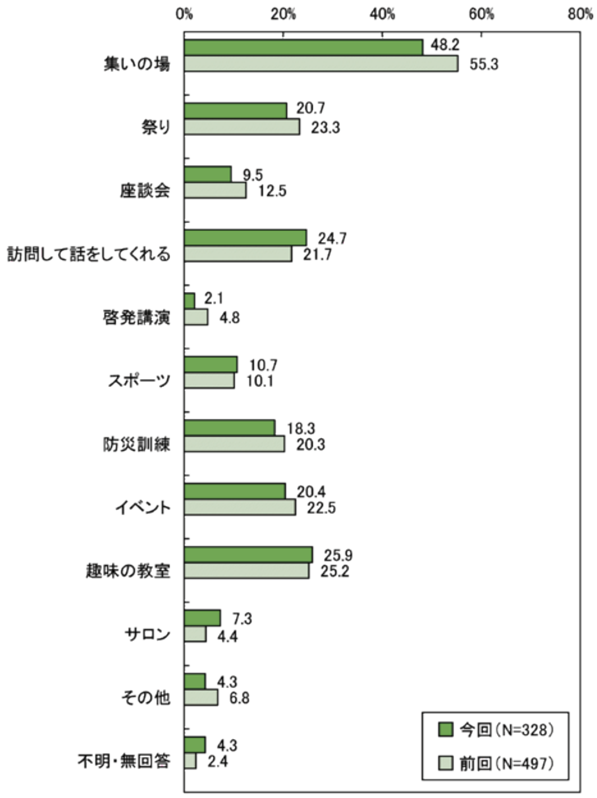
食をとおしたつながりづくり
写真：2018年7月　AGALA食堂

他にも、ボランティア活動や福祉の啓発活動などたくさんの方が活動されました。

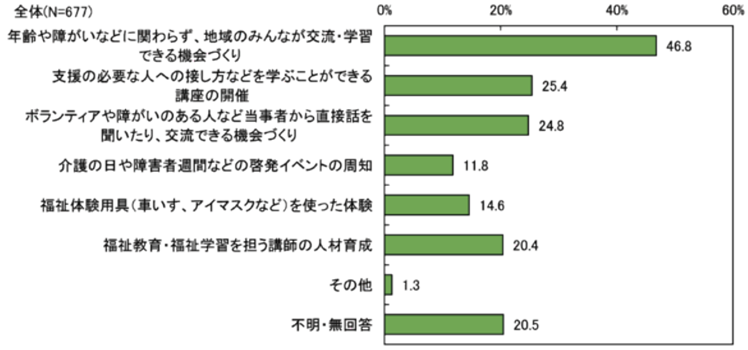
◎住民の皆さんはどんなまちにしたいんやろ？

第3次有田市地域福祉計画策定のために、有田市が実施した市民アンケート結果を一部ご紹介します。
※　詳細は、「第3次有田市地域福祉計画」をご確認ください。

市民アンケート問5
参加しやすいつながりづくりの形



市民アンケート問32
福祉教育・福祉学習を効果的に行うために必要なこと



市民アンケートからは、集いの場を求めていることや、年齢や障がいのあるなしに関わらず、みんなで交流や学習することを希望する人が半数近くを占めています。

◎福祉や医療の仕事をしている人たちは、どんなことを思ってるんやろ？

本計画策定にあたり、福祉専門職の皆さんと意見交換をした内容を一部ご紹介します。

「自分たちの専門性をもっと発揮して、地域の方からもご相談されるぐらいになりたいよね。」

「福祉の専門機関が、支援している方の困りごとを代弁したり、意識的に地域の方との交流の場をつくっていきたいね。」

◎中学生から高齢者まで、地域のみんなで地域について話し合ったら？

本計画策定にあたり開催した、オンラインまちづくりワークショップでのご意見を一部ご紹介します。

「若い世代が高齢者にSNSを教えられる場があったらいいな。」

「市外へ出てしまった人たちにも地域のことを伝えられたら、戻ってくるきっかけをつくれないかな。」

「一人で避難できない人をご近所が知っておく必要があるよね。」

社協って なに？

地域のみなさんが **ふ**だんの **く**らしの **し**あわせ を感じられるまちづくりのために

みなさんが主役となってできることのお手伝いするのが社協です！

社会福祉協議会は、地域福祉を推進する民間の団体です。社会福祉法に基づき設置されています。社協という略称で親しまれています。
理事・評議員は、住民代表や福祉関係団体・行政職員等により組織されています。
そのため、多分野多世代の方と、住民のみなさんの福祉向上を目指して運営しています。
また、全国のすべての都道府県市区町村社協があることで、幅広いネットワークをもっています。

			例えば・・・
1	「どんなことが **課題** になっているのかな？」	を一緒に考えます。	・学習会 ・ワークショップ
2	「どうすれば **解決** できるのかな？」	を一緒に分析します。	・アンケート実施 ・企画立案
3	「どうやって **行動** したらいいのかな？」	を一緒に組み立てます。	・活動の立上げ支援 ・講演会開催
4	「こんな感じで **継続** していいのかな？」	を一緒に振り返ります。	・振り返り会 ・活動報告会等

普段どんな活動をしているのかは次のページとWebでチェック！

HP

「地域福祉活動計画」とは

このように社協は、皆さんと一緒にまちづくりを進めています。
皆さんが**地域**における**福祉**をどのようによりよくしていくか、住民の皆さんのご意見をお聴きし、取り入れ、これからの目標として作成するのが「地域福祉活動計画」です。
有田市が策定する『地域福祉計画』と連携して進めていきます。
第３次地域福祉活動計画は、2022 年度～ 2025 年度の４年間の計画です。

結局　社協はなにをしてるの？

社協がお手伝いしている活動を一部ご紹介します。◆の番号は前ページ参照。

防災をテーマにした地域活動　2 3

野自治会では、7.18 水害を教訓に災害に強い地域づくりに向け、防災モデル地区として取り組まれています。社協は、次の活動での企画運営に参画しています。

・民間の避難ビル（トーヨーカネツ）を利用した「高齢者・避難行動要支援者等」を対象とした避難訓練の実施 / 防災グッズの展示（7 月野自治会独自実施）
・災害時避難行動要支援者への声掛け訪問訓練
・一斉避難訓練の実施（9 月中央地区一斉訓練）
・防災学習会の実施
・コミュニティ・タイムライン作成のための学習会や協議の場への参画

△野自治会での防災学習会の様子

地域活動の人づくり　1 3

◎2021 年度には、「まちかど相談所チャレンジ講座」を開催し、地域での困りごとを知る機会や異世代との対話の場づくりを行いました。また、活動の際の広報スキルや場づくりメニューの体験講座も実施しました。

◎ボランティア体験の機会づくりや、ボランティア活動をしている方々との連絡会などを運営しています。

活動の立上げ支援　2 3 4

◎子どもたちに防災の意識や生きる力をつけたいと考えているママたちの声をお聴きし、その思いをどのように広げていくかを一緒に考え、防災教育グループの立上げを支援しました。
　その後、アンケート調査や防災ワークショップの開催をされています。

◎その他、高齢者の生活支援や見守り活動をどのように行うか、一緒に考え立ち上げた活動もあります。

△マモッチャクラブによる
防災ワークショップの様子

新たな課題の当事者の場づくり/当事者団体の事務局　1 4

◎近年、学校にいけない子どもさんが増えており、親御さんたちが一緒に語れる場をつくり運営しています（奇数月第 3 日曜日開催）。

◎その他当事者等の支援として、次の団体の事務局をしています。
・老人クラブ連合会　・身体障がい者連合会　・障害児者父母の会
・母子寡婦福祉連合会　・遺族連合会

みんなで解決！
重点課題Ⅰ「共助のための担い手不足」

基本目標1
「自分も人も　まちも未来も　大切にできる人づくり」

地域で暮らすいろんな立場や世代の人が、お互いを思いやり、それぞれの暮らしをよくするために活動し、お互いを高め合うことで人権を大切にする有田市を目指しましょう。

目標達成のために、こんなことをしてみませんか？

基本施策1
地域福祉人財育成

◎家族や周りの方のことを気にかけてみましょう。

◎ご近所や友達の困りごとに、無理ない範囲で手助けを申し出てみましょう。

◎最近の学校の仕組みや、災害のことを学んでみませんか？

私だったらどんなことができるか、書いてみましょう。

基本施策2
ボランティア・助け合い活動の推進

◎活動している方は、仲間づくりを進めましょう

◎課題を感じている方はアクションしませんか？

◎体験講座などを通して、ボランティア活動に取り組んでみましょう。

私だったらどんなことができるか、書いてみましょう。

みんなで解決！
重点課題２「つながりの希薄化」

基本目標2
「出会いと学びの場からはじまる関係づくり」

特別な関係ではないけれど、声をかけ合える関係性が広がることで、困りごとの発見や災害時などに活かされます。立場の違う方々と出会うことで、お互いを知り、課題解決につながっていきます。

目標達成のために、こんなことをしてみませんか？

皆さんも
考えてみてよ！

基本施策3
小さなつどいの場づくり

◎地域でどんな活動があるのか、気にかけてみましょう。

◎自分たちの趣味や特技を活かしてできることを探してみませんか？

◎企業や法人にも地域のためにできることがきっとありますよ！

私だったらどんなことができるか、書いてみましょう。

基本施策4
地域共生プラットフォームづくり

◎地域の中には、しんどさや生きづらさを抱えて暮らしている人もいると気にかけてみましょう。

◎自分と立場の違う人の話を聴いてみませんか？

◎福祉専門職は、当事者の声を代わりに発信しましょう。

私だったらどんなことができるか、書いてみましょう。

みんなで解決！
重点課題３「当事者の課題共有」

基本目標3
「一人に寄り添う地域づくり」

地域で暮らす誰もが、いつしんどさや生きづらさを抱えることがあるかもしれません。そうなった時に、変わらず地域で暮らしていけるように我がごととして考えられる寛容な地域でありたいです。

目標達成のために、こんなことをしてみませんか？

基本施策5
相談体制の構築

◎困りごとを自分だけで抱え込まないようにしましょう。

◎誰かの困りごとや地域の課題を一緒に考える機会があれば参加してみませんか？

◎専門性や経験を地域のために活かしてみましょう。

私だったらどんなことができるか、書いてみましょう。

基本施策6
課題の把握と解決への取組

◎ご近所の方とのあいさつや、「最近どう？」の声掛けを大切にしませんか？

◎悩んでいる人を一人にさせないために何ができるか、考えて行動してみましょう。

◎仲間と話し合う場や学習会へも参加してみましょう。

私だったらどんなことができるか、書いてみましょう。

みんなで解決！
重点課題４「 情報発信 」

基本目標4
「伝える･伝わる･届く場づくり」

活動されている方々の思いや内容がいろんな方に伝わることで参画者や協働者が増えていきます。また、情報を必要とされている方にきちんと届くことが大切です。情報を発信する人、受け取る人、それぞれの心がけがつながりを広げていきます。

目標達成のために、こんなことをしてみませんか？

基本施策7
地域活動の見える化

◎何か活動をしている方は、ぜひ、その活動を誰かに伝えたり、発信してみませんか？

◎時には活動を振り返り、整理する時間もとってみましょう。

私だったらどんなことができるか、書いてみましょう。

－－－－－－－－－－－－－－－－－－

－－－－－－－－－－－－－－－－－－

－－－－－－－－－－－－－－－－－－

基本施策8
情報発信支援

◎身の回りにいる人と、地域情報についても話をしてみましょう。

◎新しい発信方法・SNSなどについても、チャレンジしてみましょう。

◎自分が得た情報を必要だと思う人に伝えてみましょう。

私だったらどんなことができるか、書いてみましょう。

－－－－－－－－－－－－－－－－－－

－－－－－－－－－－－－－－－－－－

－－－－－－－－－－－－－－－－－－

有田市社協はこんなことに取り組みます！

- 学校や地域での福祉学習
- 減災・防災のための学習
- ボランティア体験
- 活動している方へのアドバイス
- 助成金の案内や実施
- 活動団体への訪問

- 各種サロンの立上げ・運営支援
- 家族介護教室の開催
- 不登校の子をもつ親の会運営
- 福祉団体の育成支援
- 大学生と一緒に活動する
  (和歌山大学・関西大学
  摂南大学・和歌山信愛大学 他)
- 専門職同士の連携

- 心配ごと相談、介護相談
- 当事者支援
- 調査活動の実施
- 判断力が不十分な方の金銭管理を含めた支援
- 課題を抱えている方へのヒアリング
- 課題解決のための具体的な取組への企画・運営支援

- ボランティアフェスティバルの開催
- 異世代活動報告会の開催
- 地域活動総合情報サイト
  「あるあるarida」運営
- 当事者の声発信支援　フリーペーパー設置
- 訪問活動・活動の把握と掲載
  ・有田市社協ホームページ
  ・有田市社協フェイスブック
  ・あるあるarida

有田市のありとあらゆる活動の情報発信サイト
「あるあるarida」登録者募集中！

こんな活動者におススメ！
・自分たちでホームページをもつのは難しい
・ネットでイベントを告知したい
・活動をたくさんの方に知ってほしい
・口コミでは新しいメンバー募集に限界がある

さぁ！あなたも自分の地域のことを一緒に考えよう！

▶STEP 1

1 ほんまは教えたないんやけど、有田市(うちの地区)の「ここええとこなんやで」ポイントは？

2 おもしゃかった地域での思い出はどんなこと？

3 有田の人らのこんなとこ、ずっと大事にしてほしんや！はどんなとこ？

4 実は誰かに知ってほしいと思ってた私の、〇〇さんの、困りごと

▶STEP 2

1 有田市が、いろんな立場の人にとって暮らしやすくあるために、何があったらええんやろ？あなたが思うまちの姿はどんなんですか？

2 その実現のために、あなたは、誰と、どんなことが、できますか？

地区　　お名前　　（　　歳）

あなたのプランを教えてください。

・このページの内容をメールに打ち込むか、このページをコピーして社協あてFAXしてください。社協だよりやSNSでご紹介させていただくことがあります。その場合はご連絡いたします。
・プランづくりをもっと深めたいという方や、いろんな人と話し合いたいという方は社協へご相談ください。一緒に場づくりを考えます。

電話　0737-88-2750　　fax　0737-88-2033
Mail　aridashi.shakyo@gmail.com

送付の際は、ご連絡先をお書きください。

表紙のイラストをみてください。
次に、この下にあるイラストをみてください。
表と裏のイラストは同じ構図です。
でも、違う絵に見えませんか？

そこに暮らす人たちがどんな営みをするか
それによって町は変わっていきます。

有田市がいろんな立場の方にとって暮らしやすくなるように
一緒に　まちづくりをしていきましょう。

発行　社会福祉法人　有田市社会福祉協議会
〒649-0432
和歌山県有田市宮原町東215番地
有田市福祉館なごみ内
URL　https://aridashi-shakyo.jp/

２０２２年３月発行